

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90217	映像論研究 (偶数年度開講)	2単位 前期 (集中)	1・2	講義	野村康治(非) 仲本 賢

■テーマ 映像に対する客観的視点を養う

■授業の概要

映像はときに視覚以外の感覚情報を含むが、やはり視覚情報を抜きに語ることでできない表現である。従って、視覚に関する理解は映像作品、映像メディアの理解にも欠かせないものといえよう。そこで本授業では、まず科学的知見に基づいて視覚メカニズムを説明し、人間がいかにか「映像を視る」のかについて述べる。そして、人間がいかにか映像作品の内容をとらえ、理解していくのかという映像認識に関する問題を取り上げる。参考映像視聴を多用しながら、人間と映像との関わりを科学的な観点に立ち、多面的に解説し、映像とは何かを考察していきたい。人間の視る機能や認知のメカニズムを理解した上で、映像による情報伝達、人間と映像とのかかわりについて思索し、理解してほしい。

■到達目標

- ・映像を認識するメカニズムに関して学術的知識を習得する。
- ・映像作品に対する客観的論考ができるようになる。
- ・映像と人間との関わりが理解できるようになる。

■授業計画・方法

1. 映像とは（映像を視るということ）
2. 視覚の生理学的基礎
3. 色覚と色の印象
4. 視覚表現と人間の知覚特性
5. 空間知覚と映像における空間表現とその印象
6. 運動知覚と映像における動き表現とその印象
7. 美と感性
8. 映像情報の心的処理
9. 映像操作がもたらす心理的効果
10. 映像編集がもたらす心理的効果
11. 映像と人間発達との関連1（乳児期～青年期）
12. 映像と人間発達との関連2（青年期以降）
13. 映像が人体に及ぼす影響
14. 映像と心の病理
15. 授業のまとめ及びレポート提出（全行程の振り返りを行う）

定期試験・・・定期試験は実施しない。

※芸術文化科学研究科（博士課程）の学生には、上記日程以外に別の日程で映像論に関する文書、書籍の講読を課題として与え、これらに関する解析と論考を行なうレポートを課す。また発表会を設け討論を行なう。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

・授業では参考映像を提示するが、授業時間内に提示できない映像資料もある。授業で紹介した参考文献、参考映像資料について授業時間外に図書室等で検索、視聴することが望ましい。なお、レポートを課すので、調査、検討し期限内に提出すること。

■成績評価の方法・基準

□方法 ・平常点25%・コメントペーパー25%・レポート50%で総合的に評価する。
・レポートは2課題とする。

□基準 ・到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。平常点は授業時の発言など授業参加の積極性などによって評価する。また提出されたコメントペーパーやレポートによりその理解度を評価する。
なお、芸術文化科学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献 『見てわかる視覚心理学』2014/4 大山 正（著）、鷲見 成正（著）

『映像の心理学—マルチメディアの基礎（新心理学ライブラリ（S1））』1996/6/ 中島 義明（著）

『映像心理学の理論』2011/11 中島 義明（著）

『アニメーションの心理学』2019/9 横田 正夫（編）

この他、必要に応じて授業時に指示する。